

# 疲れ果て「一緒に死のう」

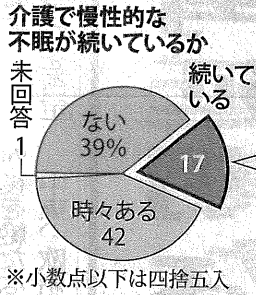
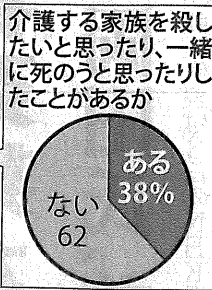
# 在宅介護2割が「殺意」

自宅で家族を介護している人の約7割が精神的・肉体的に限界を感じていたことが毎日新聞の調査で分かった。約2割は介護疲れなどから殺人・心中を考えたことがあるとし、被介護者に暴力をふるった経験を持つ人も2割を超えた。負担や孤立に悩みながら、愛する家族を支える介護者の姿が浮かび上がった。(27面に関連記事)

## 本紙全国アンケート

毎日新聞は1〜2月、介護者支援に取り組む全国の8団体を通じ、在宅介護者にアンケートを実施し、245人(男性62人、女性181人、性別不明2人)から回答を得た。

介護によって精神的・肉体的に限界を感じたことが



※小数点以下は四捨五入

## 7割「限界感じた」

「ある」とした人は73%(179人)に上った。全体の22%(54人)は介護中に被介護者に暴力をふるった経験があると回答した。

さらに、介護している家族を殺してしまいたいと思ったり、一緒に死のうと考へたりしたことがあると答えた人も約2割(48人)いた。どんな時に殺人・心中を考えたかを尋ねると(複数回答)、77%は「介護に疲れ果てた時」と答えた。「将来への不安を感じた時」も40%に上った。

介護による不眠状態が「続いている」(42人)と「時々ある」(104人)を合わせると、全体の約6割に上った。この146人

に、一晩に起きる平均回数を尋ねたところ、1〜3回が約7割(104人)を占め、4〜9回も14%(20人)いた。不眠状態が続いている人の38%(16人)、時々ある人の22%(23人)が殺人・心中を考えた経験があると答えていた。

認知症などの症状のために夜間の介助が必要な人は多く、介護者も不規則な生活を強いられる。在宅介護の現場では、介護者の不眠状態が深刻な問題の一つであることが裏付けた。

## 地域全体で寄り添おう

介護家族を訪問支援している北海道栗山町社会福祉協議会の吉田義人事務局長の話。在宅介護者の7割が限界を感じたという結果は深刻だ。相当な時間を介護に費やし、相談相手もいない人は多い。情報提供したり、言葉に耳を傾けたりして、地域全体で介護者に寄り添うことが必要だ。

また、2割近い人(46人)は介護の悩みやストレスを日常的に相談できる人が周囲にいないと回答した。回答者の年代は60代以上が69%を占め、50代は22%だった。介護年数は「5年以上10年未満」の24%が最多で、「3年以上5年未満」(22%)が続いた。「10年

きょうは清明  
二十四節気  
江戸時代の暦の解説書  
略とされ、すべてが生  
き生きとして清らかに  
見えるさま。

以上も19%いた。  
【「介護家族」取材班】